馬から下りて花を看る

アウトドア・コーディネーター
洞口 健児さんに聞く

ウォーキングで柏原を元気に

ウォーキング人口はいまや四〇〇〇万人ともいわれますが、健康効果以外にも、たとえば、知っているようで意外と知らない自分の町や地域の魅力を再発見する楽しみ方もあります。柏原をもっと元気にするには、だから、「歩いて楽しい道」をたくさんつくることだ、とアウトドアの第一人者、洞口健児さんは語ってくれました。

柏原の自然を生かしてウォーキング・コースを

浜浦

■ほらぐち・けんじ
（有）アウトドアコーディネイツ　代表取締役
1950年、岐阜県生まれ。出版社勤務の後、88年（有）アウトドアコーディネイツ設立。アウトドアという新分野での専門家として、多方面で活躍。そこにある自然を活かす総合自然空間の演出を目指し、国土交通省から吉本興業までと多岐にわたって幅広くアウトドアの提案を行っている。

浜浦　モータリゼーション全盛の時代に、歩け歩けのウォーキングブームが続いています。

洞口　メタボ対策もあって、みんなものすごく歩くようになりました。健康効果はもちろんですが、ウォーキングの楽しみ方は他にもたくさんあります。

浜浦　私は市長選のとき、柏原市をほぼ全域歩いたのですが、いろんな〝発見〟をしました。車を走らせているだけでは気づかなかったわけで、歩くことはすごいことだと実感しました。

洞口　中国の人はいいことを言ってます。「馬を走らせ花を看る」。馬から下りて花を看る」と。馬を走らせながらではなく、下りないと花はよく見えないんです。

浜浦　柏原は、大和川が中央を流れ、緑が豊かで自然に恵まれています。史跡も多いんです。ウォーキングを楽しむ条件は揃っているはずですが、現状は残念ながらそれが生かされているとは言えません。

洞口　ウォーキング・コースにはつくりかたがあって、人が来てくれるようにつくらないといけないんです。AからBへ行くだけの一本道ではだめで、ラウンド（周遊）させるのがコツです。大小さまざまなラウンド・コースをたくさんつくり、互いにリンクさせることで歩く楽しさは倍増します。

浜浦　柏原市は、竜田越古道、業平の道を整備していますが、工事することが目的となっているようで、私は賛成できません。お金をかけずにできる方法があるはず。

洞口　一つの方法として「フット・パス」があります。イギリスで発達したもので、牧場や畑の中の私有地を通り抜けできるよう認めましょうというものです。行政がわざわざ道路をつくらなくても、遊歩道ができます。有名な桜井から奈良へ続く「山辺の道」がまさにこれです。時々、私有地を通ったりしていますが、一部、石畳をつくっただけで、新たに道をつくったわけではありません。

浜浦　二〇年くらい前、埼玉県東松山市の「日本スリーデーマーチ」に参加し、感動しました。柏原にもつくりたいと市役所の人に話したら、「トイレはどうする」「事故の責任は誰がとるのか」と、全然話が前に進まなかったんです。

洞口　そういうイベントをするとき、現在では主催者側が保険に入り、保険の範囲内で対応するというのが一般的で、それを了解した上で参加してもらうんです。

浜浦　なるほど、よくわかりました。もうひとつ、私が前々から考えているのは、近鉄国分駅から大教育大駅へ続く原川沿いを市民ができないかということなんです。

洞口　自分の住んでいる身近なところに、歩いて楽しい道をつくることがまちおこしでは重要です。観光ではなく、住民のためです。人々は、いま、歩く場所を求めてますし、歩く値打ちのあるところを求めています。

浜浦　歩いていて、素敵な店があると寄ってみようと思います。だから、歩くって大事ですね。

洞口　全国各地でまちおこしが盛んですが、結局、どういうところが成功しているかというと、歩く値打ちのあるエリアをつくっているところなんです。歩く価値のある道をどうつくるか、どう演出するかが重要になります。住民と一体となって、参加したり、体験したりする、そういう仕掛けをどうつくるか。

浜浦　原川沿いの道も山すそのウォーキング・コースとリンクしてしまえばいい、と。

洞口　ラウンド・コースを一つ設定してやればいいんです。たとえば、一周二〇キロあります、そのうちの一番いいのが原川沿いのプロムナードですと紹介するわけです。ウォーキング・コースというのは、だいたい十五キロが基本といわれます。

浜浦　というと？

洞口　一五キロというのが絶妙な長さでして、普通の速度で歩くと四、五時間かかります。観光に関する調査では、四時間以上滞在しないと人は食事しないんです。つまり、一日コースにしないと地元にお金が落ちないんですね。

何の変哲もない、観光地ではないけれど、ウォーキングできるエリアをつくれば、観光地だとは一言もいわなくても、歩くために人がどんどん来て、お菓子屋も飲食店も儲かり、地元が潤うわけです。

浜浦　ウォーキング・コースの選定は住民が主体になってやったほうがいいのですか。

洞口　やるという人がいないときは募ればいいと思います。みんなでわいわいやりながら設定すればいいんです。普段から歩いている人は必ずいるはず。「ここは車が来ないよ」「ここはきれいな花が咲くよ」「こういう珍しい鳥がいる」とか、そういう情報を集めればいいんです。市民がみんな出てきて、みんなで道をつくろう、と呼びかけること。専門家がちょこっと来て、ここいいですよ、と言うんじゃなくね。

浜浦　維持管理も住民たちでやるわけですか。

洞口　ウォーキング・コースのレンジャーになってもらって、普段時々見回り、危ないところがあれば直してもらえばいいし、標識なども手づくりでいいんです。一々、市役所に直してくれと言うのではなく、全部、住民主体でやると。そこに、私のような専門的な人間が少しアドバイスするくらいでちょうどいい。

浜浦　なるほど、このやり方だとそんなにお金をかける必要がありませんね。行政がやると建設会社に設計させて、きれいな道だけど味気ない道になります。

洞口　ウォーキングで一番うれしいのは、四季の自然の変化を五感で感じられること。すぐ立ち止まれるし、戻ることもできるし、おしゃべりしながら歩けます。心身ともにいい。癒し効果があります。もっとも、殺風景な風景の中を自動車がブンブン飛ばしているところ歩いても癒されないので、少しでも癒しの効果が得られるところを設定することです。

浜浦　貴重な話をありがとうございました。夢ある柏原をつくるためにとても参考になりました。

住民が歩いて楽しめる道をつくることが大事

洞口

Shops

原川沿いのおしゃれなお店

柏原市の国分地区を流れる原川に沿って、レンガタイルが敷きつめられたコミュニティ道路がある。おしゃれな雰囲気にぴったりのお店がオープンし、散策のついでに立ち寄る市民や女子学生らの人気を集めている。

▶真っ赤なかわいいドアが目印

手作りケーキと焼き菓子が評判

Sacha

手作りのケーキと焼き菓子が評判の「サーチャ」は、一〇年ほどケーキ職人として働き、念願の独立を果たしたオーナーのさやのさんが一人で切り盛りしている。物件を探していたところ、たまたま空きが出たこの場所に出会い、即決。三月にオープンした。

店名は、自身の名前「さやの」に「茶」をくっつけた。マンションの一階にある約八坪の店内は、陽光が差し込み、すっきりとした清潔感があふれている。飲み物はコーヒー、紅茶、ハーブティー。焼き菓子とケーキは毎朝作った分しか出さないので、売り切れた時点でおしまい。口コミで広がり、終日、お客が途切れることがない。「地元のみなさんに可愛がられて、ここまでやってこれました」と、加藤さんはニッコリ。

ママに人気のセレクトショップ

KusKus

一方、隣の「クスクス」は、六月にオープンしたばかり。子供、学生、ミセスを対象にした洋服、靴、雑貨などが店内に並んでいる。商品はすべてオーナーの中村美恵さんが仕入れたもので、いわゆる「セレクトショップ」。

OLをしていた中村さんは、結婚して奈良に引っ越したのだが、子供さんが手がかからなくなったのを機に、以前から興味があったショップをオープンした。約七坪の店内は、リーズナブルな値段とすべて自分のセンスで仕入れてきた商品が並び、年代の近い若いママさんや女子学生を引き寄せる。中村さんは「あたたかい人ばかりで、すぐに溶け込むことができました」と話す。

▲店先にも華やかに商品が

information
イベント等のお知らせ

■子育て相談会
【7月23日（木）／午前10時～11時30分／会場：旭丘まぶね保育園／問い合わせ：旭丘子育て支援センター「ハーモニー」（電話976-0001）】

■世界で一つだけの絵本をつくろう！
【7月25日（土）／午後2時～／国分図書館4階／問い合わせ：975-1212（国分図書館）】

■市民歴史講演会「船橋遺跡の土偶と縄文時代の祭り」
【7月25日（土）／13時30分～／堅下合同会館／講演：大野薫氏（大阪府教育委員会文化財調査事務所）／申し込み不要／柏原の郷土史を探る会 宮川良造（電話977-5235）】
大和川の河川敷・川床から、旧石器時代、縄文・弥生時代などの遺物が発見されている船橋遺跡について講演する。

■第4回笑好寄席（しょうこうよせ）桂つく枝改め 桂文三 襲名特別興行
【7月26日（日）／開場13時30分、開演14時／アゼリア柏原6階大会議室／前売り1800円、当日2000円／柏原市商工会】

■NHK大阪児童劇団特別公演ミュージカル「生きていてこそ！～焼け跡の子どもたち～」
【8月2日（日）／開場13時30分、開演14時／リビエールホール／一般前売り2000円（全席指定）】
空襲にあった焼け野原でくらしている子供たちのお話。柏原の小学生のみなさんも舞台に立ちます。

■柏原市議会議員選挙
【8月30日（日）／午前7時～午後8時／各地域投票所】
8月23日（日）に告示され、選挙運動が始まります。柏原市の将来を決める重要な選挙です。必ず投票しましょう。当日、仕事や旅行などの予定がある方は期日前投票ができます。

家の中で子供とふたりだけ…ではママも子供もちょっとたいくつ。そこで毎週木曜日、おしゃべりサロンを開いています。ごはんを食べたり、遊んだりするスペースもあります。いっしょに楽しく過ごしましょう。

親子おしゃべりサロン ゆめ

公共施設ではなくボランティアのママさんが行うものです。お子様の安全は、責任を持って保護者の方が管理してください。
旭ヶ丘2丁目4-15　電話／975-3833

- 開催日／毎週木曜日 10:00～15:00
- 料　金／1回100円（定員／10名）
- 対　象／幼稚園・保育園に入園前のお子様

はまうら佳子の元気が出るコラム

以前、レストランで知り合いと食事をしていとき、赤ちゃんを連れた若いお母さんが隣の席にいて、子供好きの私はついつい話し込んでしまいました。

その時、子育て中の母親にとって気晴らしできる環境が少ないという話題になって、幸せそうな彼女の表情が一瞬曇ったのでちょっとびっくり。聞けば、市外から引っ越してきてマンション住まい。知り合いも少なく、マンションの一室で子供とふたりだけだと、ノイローゼになりそうだと言うのです。

男性の育児参加が進んだとはいえ、まだまだ子育てに関する苦労はすべて女性が担う、という構図は変わっていません。専業主婦であろうと、働いている主婦であろうと同じです。

個人差はあるでしょうが、男性は仕事を名目にしてほとんどノータッチというのが一般的。核家族化が進むなかで、身近なところに相談したり、頼める人がいないまま〝密室育児〟と呼ばれる母親だけの孤立した子育てを強いられている人も多いと聞きます。そして、ときにはわが子への虐待という悲しい出来事も起こっています。

そんなお母さんの声を聞き、「親子おしゃべりサロン」を始めました。お母さん同士も気楽に話をし、ひとときほっとできる場所になればと思っています。